
報告者名	菊地 暁	被調査者生年	1936年(男)
調査者名	菊地 暁	被調査者属性	中谷地契約講長
補助調査者	なし		

萩原神社の再建

震災で流された萩原神社を再建することができた。この間、契約講長として御神体をお預かりしていたので、一安心している。

再建は2012年3月の契約講総会の場で提案し、特に異論もなく承認された。費用は、当初の見積もりで70万円だったのが、見積もりに含まれていなかった土台の工事が必要になったり、鈴を新規購入することになったり、何やかんやでいろいろ膨れあがって結局160万になった。中谷地契約講は16戸なので、各戸10万円ずつ出した。集金の20日ほど前、ちょうど被災者給付金10数万円が支払われたので、それに宛てることができた。再建された社殿は震災前と同じ位置で同じ規模のもの。大工の棟梁さんに薦められて火災保険にも入った。掛け金3万円で補償額が400万円。

再建までの間、2012年9月の萩原神社のお祭りは沖区の公民館で行った。2011年9月のお祭りは八幡神社境内の萩原神社があった場所まで御神体(話者が預かっていた)を運んで行った。

2012年11月18日が落成式だった。式には、県議や市議、市長もちょっとだけ参加した。八幡神社の境内を借りているので、八幡神社の氏子総代にも参加してもらった。神事は、八幡神社の神主さんが辞めてしまったので、塩竈神社の神主さんに頼んだ。落成式のお布施の相場はまるでわからなかったので、3万円包んだ。多賀城鹿踊も奉納した。萩原神社の向かいにあるプレハブで直会した。後日、河北新報に記事が載った。

落成式の写真を講員に回覧した。記念に欲しい人もいたので、息子に頼んで印刷したものをクリアファイルにまとめて冊子にした。今度の移動契約(3月の総会)までに人数分作るつもりでいる。

海軍工廠

最近、『図説 多賀城海軍工廠』という冊子が出版されたので買った。



写真1 萩原神社の落成式に奉納される鹿踊(2012年11月18日 話者提供)

工事をしていた人は、ターコ、タコと呼ばれていた。北海道から来た菅原組というのが雇ったタコ部屋労働者のことだった。服も粗末、食べ物も粗末で働かされていた。朝鮮人や囚人もいた。囚人は赤服や青服を着ていて、子供心に怖かった。

工場ができると、学徒動員の女学生も随分来ていたらしい。

海軍工廠をめがけて米軍の空襲があった。自宅の前に作った防空壕に避難した。怖かった。機関銃を撃つと、葉莢を落とすのだが、それが屋根の上に落ちたことがあった。

復興の現在

田んぼの米は、今年は平年どおり収穫できた。塩抜きがきちんできたようだ。

震災で傷んだ倉庫を撤去し、整地して塀を作った。370万かかった。家の壁は、先月、クロスを張り替えた。

この辺りは、しばらくすればまた住宅地になると思う。あんな大きな津波がそうそう来るわけではない。